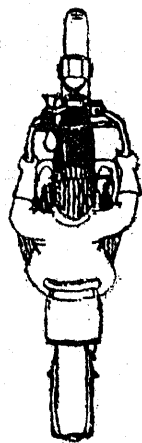


通信



東京だより 田中生

肅啓、明治維新より半世紀以上に亘つて、都民が苦心慘憺漸く築き上げたる帝都も、大正十二年九月一日午前十一時五十八分に起りし大地震に起因して、猛火を誘導し延焼三晝夜に亘りて其の姿を没し、所謂武藏野の焼野ヶ原と化し申候は帝國々運の進展を阻害すること著しく誠に痛嘆に不堪次第に御座候、本會も亦此災厄を免るゝ能はずして、事務室は勿論財産全部烏有に皈し、折角讀者諸君に頒布すべく完成した第五卷第三號も、印刷所の類焼と共に焼失致候は、寔に申譯無之、爾來晝夜兼行稿を蒐集し

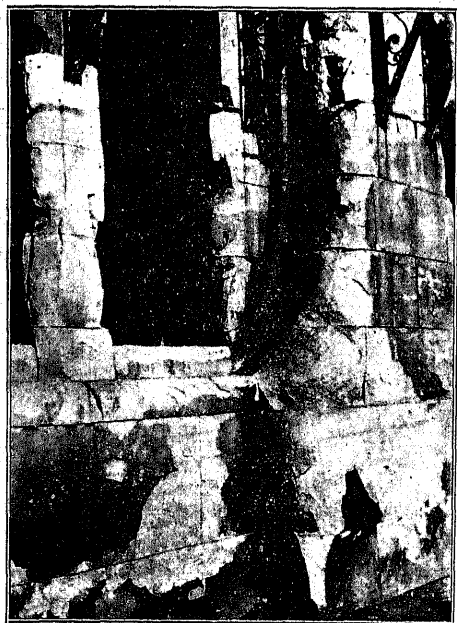
て印刷を急ぎ候得共、當地に於ては適當なるもの無之、爲に專任幹事を北陸、關西其他の地方に派して、漸く本號を發刊するの運びに至りたる次第に有之、此義御寛恕願度候。

炎々たる火焰の裡に逃げまどふ無數都民の叫喚は此世ながらの焦熱地獄にして、焼死者七萬、焼失戸數二十九萬を算するが如きは、大正の今日想像だも許さざりし處に有之、其の慘狀の詳細に付きては既に御了知のこと、存候に付茲に愚筆を弄せず候得共、慘害をして此の如く増大ならしめたるの一因は、從來の都市築造が防火の考慮を街路施設に用ひざりし点に有之候、若し焼失したる銀座街が三十間以上

の道路にして、之に銀杏樹其の他防火に適する完全なる竝木を有したらむには、今日の慘禍を見ざりしならむとは、實地調査者の直感する處に有之候、現代の科學を以てして地震の發生を事前に豫知することを得ず之を豫防する能はずとせば、之に因りて生ずる災禍の除却輕減するの方法を攻究すること

議論倒れの嫌有之、從來行れたる都市計畫に於て殊に然りとする所に御座候、徒に現狀に捉はれて消極論を爲す者と、龐大なる計畫を樹て社會の事情を考慮せざる者と、互に自説を固持して、その日を送るに於ては事業の執行何時なるや測り知るべからず候。

は、國民共存上の自衛手段に有之、平時往々にして街路市員の廣大を責むるが如きは、短見者の愚論にして吾人の賛成する能はざる所に有



火震の入口に無變ありしに、今も驚愕の餘り、其の美觀は、影も無く、石は、剥き出し、線は、歪み、省は、傾き、萬は、崩れ、橋は、断たれ、然るに、

之候、幸ひ政府は帝都の復興を計畫し、帝都復興院を設置して東洋に於ける大都會の再造に當らしむること、相成候は、吾人の双手を擧げて賛成する所に候得共、從來官廳の爲す所は議論夥多にして、所謂

は尙相當の日時を借すことを要し之を攻撃するが却つて無理の注文と被存候、併しながら臨時的の御役所なるだけに普通の官廳と異り一層晝夜兼行、せめて路巾位を決定して、都民の爲に利便を與へられた

らざるの状況に比するときは、我國財務當局の能力を疑ふ所に御座候。

大正十三年度道路改良費豫算は、前述の如く大藏省の全部削減の意見に對し、内務當局は道路公債法の豫定したる一千萬圓を要求し、論議の結果遂に三百七十五萬圓を計上することゝ相成候は遺憾とする所に有之候得共大藏當局が主張する意見の根底は、いつも申上候通り地方道路工事が常に計畫に方り大なるも、其の實行が豫定の如く進捗せず、繰越しに次ぐに、繰越を以てする状況なるに依るものなるが故に、内務省に於ては是等進工の遅々たる工事に對しては、其の監督を嚴重にし、豫定の進捗を觀ざるものと認めたるときは、直に補助の契約を取消し、工事の進歩良好なるものに差し向くるとに、省議を決定し、近く之が調査の爲關係吏員を出張せしむる趣に付、補助を受くる府縣、市は此際十分努力して工事の進捗を圖るべく、曩の補助契約が嬉喜びに終らざる様願度ものに御座候。

内閣の交代に伴ひ、定例に行はるゝ地方長官の異動は、世人の期待する程には無之、當地に於ける地

震より、その程度低くかりしは、萬事迎合御都合主義の地方長官は定めて安堵したること、被察候、甲縣より乙縣に轉任せしむるが如き程度にては、隔靴搔痒の感有之、一層地方長官の地方政治に對する意見を徹し、内閣の主義政綱に合致したる意見を提出したる者を選択する方法を採れば、内閣の主義政綱が直に民心に反映して宜敷ことかと被存候、何は兎も角、休職を命せられたる地方長官各位中帝國道路交通改良の爲めに將た本會々務の爲に、不尠盡力せられたることを深く感謝する所に御座候。

地方長官の交代に伴ひ、本會常務執行の爲に日夜奔走せられたる、内務省土木局長長谷川久一氏が石川縣知事に榮轉せられたるは、震災を受けたる本會のいやが上の損失にして遺憾に候得共、石川縣管内に於て又是非本會々務の爲に御盡力を願度、從來の御奔走に對し深甚の謝意を表し申候。

震災に依つて休刊したる期間に於ける、事件に關し御報道申度事項尙盡さざるもの有之候得共紙面の都合上是にて擱筆致候。